

さあ、アートを感じよう

第48回

沖縄県 芸術文化祭

OKINAWA
ART&CULTURE
FESTIVAL 2019

展示部門
写真・美術・書道 公募展

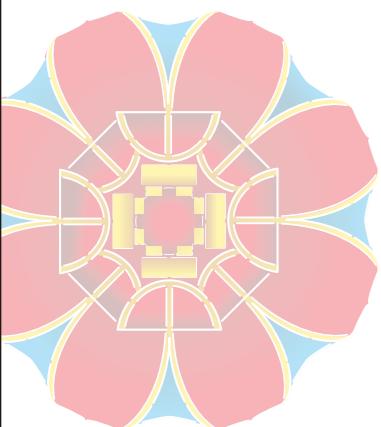


第48回

沖縄県芸術文化祭

OKINAWA ART&CULTURE FESTIVAL 2019

さあ、アートを感じよう



主催: 沖縄県・(公財)沖縄県文化振興会

共催: 恩納村・恩納村教育委員会・東村・東村教育委員会・九州文化協会・沖縄県文化協会
後援: 沖縄タイムス社・琉球新報社・NHK沖縄放送局・沖縄テレビ放送・琉球放送・

琉球朝日放送・エフエム沖縄・ラジオ沖縄

【お問い合わせ先】(公財)沖縄県文化振興会 TEL.098-987-0926

詳しくはHPをご覧下さい

<http://www.okicul-pr.jp/kengeisai/>



C O N T E N T S

主催者あいさつ 1

写真公募展

審査講評・各受賞者作品 2
美術公募展出展作品一覧 6

美術公募展

審査講評・各受賞者作品 8
書道公募展出展作品一覧 12

書道公募展

審査講評・各受賞者作品 14
写真公募展出展作品一覧 18
年度別展示部門入賞者一覧 20

展示部門 入場無料

写真・美術・書道 公募展

本展 沖縄県立博物館・美術館
2019年11月16日(土)～24日(日)
※11月18日(月)は休館日

写真選抜展 東村立山と水の生活博物館
2019年11月26日(火)～12月8日(日)
恩納村博物館
2019年12月11日(水)～12月25日(水)

舞台部門 入場無料

重要無形文化財保持者等公演

2019年11月2日(土)
読谷村文化センター 鳳ホール



沖縄県知事
玉城 デニー

主催者あいさつ

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら
第48回沖縄県芸術文化祭の開催に当たり、御挨拶を申し上げます。
沖縄県芸術文化祭は、県民の多様な文化芸術活動を奨励し、文化の向上と発展を目的として、沖縄が本土復帰した昭和47年から毎年開催しております。

今年多くの県民の皆様から、写真・美術・書道の各部門合わせて、昨年度を上回る571点の作品が寄せられ、芸術文化活動の広がりを、誠に喜ばしく思っております。

応募いただいた作品の中から、厳正な審査の結果、300点の作品が入選されました。
この度、沖縄県知事賞をはじめ、入賞された皆様並びに入選された皆様、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

作品については、県立博物館・美術館に展示しておりますので、是非足をお運びいただき、多くの優れた作品をご覧いただければ幸いです。

また、本展終了後には、北部地域の皆様にも鑑賞していただけるよう、東村立山と水の生活博物館及び恩納村博物館において、写真移動展を開催いたします。

さらに本芸術文化祭では、舞台部門として読谷村文化センターにおいて、重要無形文化財保持者等による組踊や琉球舞踊等の舞台公演を開催するとともに、組踊の楽しさを体感できるワークショップを実施します。

地域住民の皆様をはじめ多くの方々に、沖縄が誇る伝統芸能の魅力を存分に堪能していただきたいと思います。

沖縄県としましては、今後とも県民の皆様が沖縄の文化に誇りと愛着を持っていただけるよう、多様で創造力豊かな文化芸術活動を奨励・支援するとともに、広く芸術鑑賞の機会を提供してまいりますので、引き続き、皆様の御理解と御協力をお願いします。

結びに、沖縄県芸術文化祭の開催にお力添えをいただきました審査員をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、挨拶といたします。

「さあ、アートを感じよう」



公益財団法人 沖縄県文化振興会
理事長 又吉 民人

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら
第48回沖縄県芸術文化祭公募展を開催するにあたり、ごあいさつを申し上げます。
沖縄県芸術文化祭は、県民の皆さまの多様な芸術文化活動の奨励と優れた芸術作品の鑑賞機会の提供を通して、県民文化の向上に寄与することを目的に昭和47年度から毎年開催しており、今年で48回目を迎えます。

今年多くの魅力的で、個性豊かな作品300点が、皆さまのご来場をお待ちしております。また、例年好評をいただいている、東村及び恩納村での写真選抜展も開催いたします。より多くの皆さまが作品の魅力を感じてくださる機会となれば幸いです。

本展開催中は、入賞・入選作品の展示、審査員と無鑑査の作品展示、さらには、写真・美術・書道の各分野で、体験教室や審査員の先生方によるギャラリートークなどを通じ芸術を身近に感じて頂ける場を準備し充実させて参ります。

沖縄県文化振興会は、みせる・つなげる・ささえる・つくる・そだてるの五つの柱で文化芸術活動の支援に全力で取り組んでおります。沖縄県芸術文化祭を運営する当会は、今後も皆さまの身近にある芸術文化を紹介させていただくことで、沖縄の芸術文化の活性化に貢献するとともに、多くの県民の皆さまのご鑑賞の機会がさらに充実したものになるよう、力を尽くして参りたいと考えております。

むすびに、丁寧かつ熱意をもって審査していただいた審査員の先生方、ご支援いただいた関係者の皆さま、そして作品応募に挑戦した皆さまに心から感謝と敬意を申し上げご挨拶といたします。

第48回 沖縄県芸術文化祭 写真公募展

写真総評

今年度は応募数人数が昨年より若干減少したが3点出品者が増えた事で応募作品が微増しました。

作品を全体的に見渡しますと創造性の乏しい類型的な作風が目立ちました。出品者の更なる突っ込んだ創作意識を求めます。また選外の作者も次年度に向け展示会場にはぜひ足を運び自分の作品の弱い部分などを勉強し次回に生かす姿勢をお持ちください。

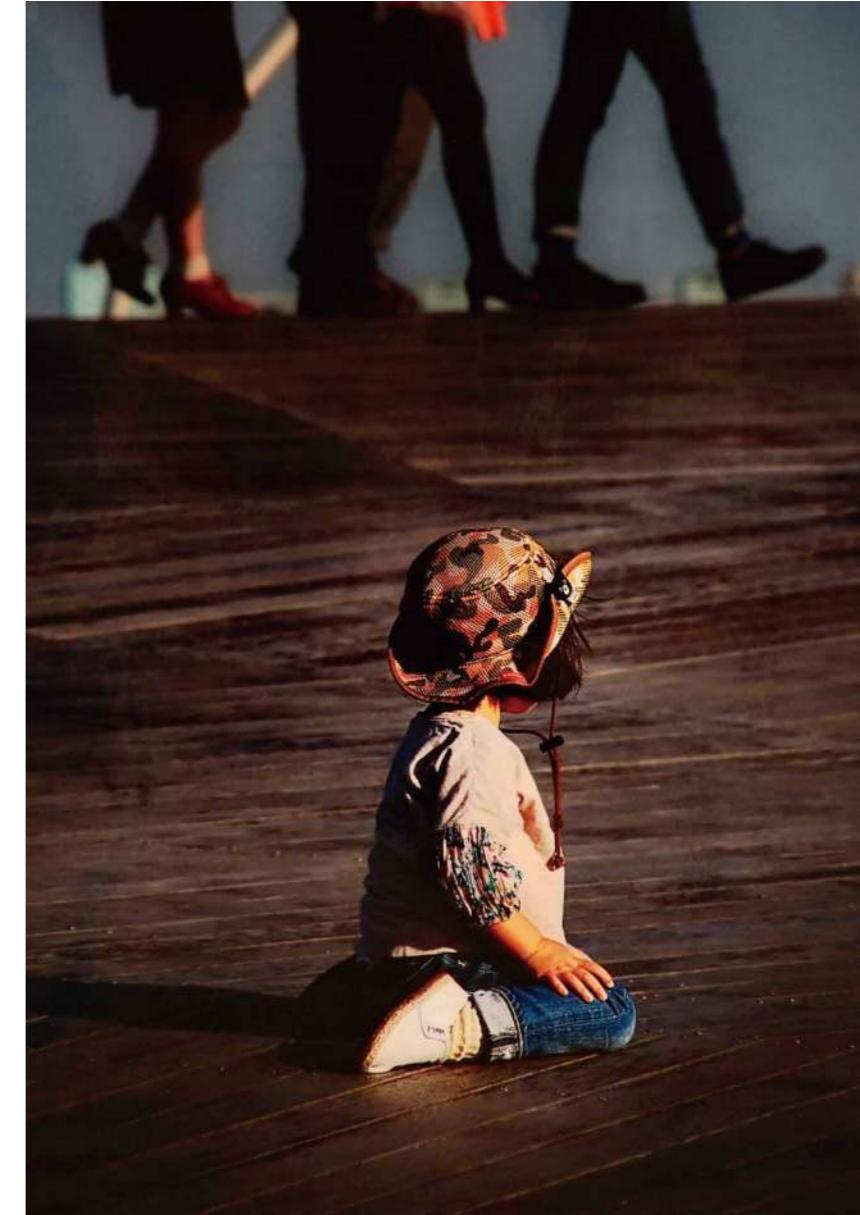
午前9時過ぎモニター室の緊張感を背中に感じつつ11名の審査員による総見が始まり、予定より少し遅れ10時過ぎから審査に入りました。審査は審査員の挙手で行われ、6名以上から入選と致しました。

今年も作品の半数がレタッチソフトを使用した仕上げになり、過色彩や稚拙な技術も目につきました。そろそろ写真の本質的な部分を含め何故デジタル処理を行うのかと思慮する事も必要と感じる時期に来ています。様々な写真の表現力を更に昇華させるためにも必要な事だと思います。

応募者の年齢構成を見ますと60～70代が7割を超え全国の公募展同様の現象が見られます。高齢化の波を止める事は出来なくとももっと若者の参加出品を促すことは大切な事でしょう。幸いにもここ2～3年若い人の実験的な作品の応募が増えているように見え良い傾向だと嬉しく思えます。

最後に県知事賞の作品がデジタル処理の無いストレートな写真が選出されたことは個人的にホッとしています。来年度はぜひ強烈な個性溢れる作品が見れることを期待いたします。

写真部門審査委員長 東 邦定



沖縄県知事賞 「もう～歩けない」

添石 艶子

写真の魅力は、1枚の写真に、もう二度と戻れない世界の一部が一瞬にして永遠に残るということではないだろうか。傑作が多かった今回の作品群の頂点に輝いた作品「もう～歩けない」も二度とない瞬間をカメラが捉えた作品です。

主体の女の子は、暑い中、歩き疲れ、これ以上は歩けない…、そして、駄々をこねて床に座り込んだ瞬間と副体である背景は、歩き続けている大人たちの姿、脚だけを捉えた瞬間、この写真の最大の勝負どころであり、作者が「こう撮ろう!」としっかりとした意図が感じられます。

構図は黄金分割に配置され、背景はシンプルな青と女の子のジーンズ色が目に飛び込んで来て、親が経験する子供たちの「もう～歩けない」の言動で困ってしまうシーケンスが懐かしく思い出されます。

女の子の目線がカメラを向いた方が良いかどうかは、ある意味、心象を弱める可能性があるので、よく分かりませんが、私にとって最初から賞候補の作品でしたので、この度の県知事賞受賞、とても嬉しく思います。おめでとうございます。

講評担当者 浦本 寛史



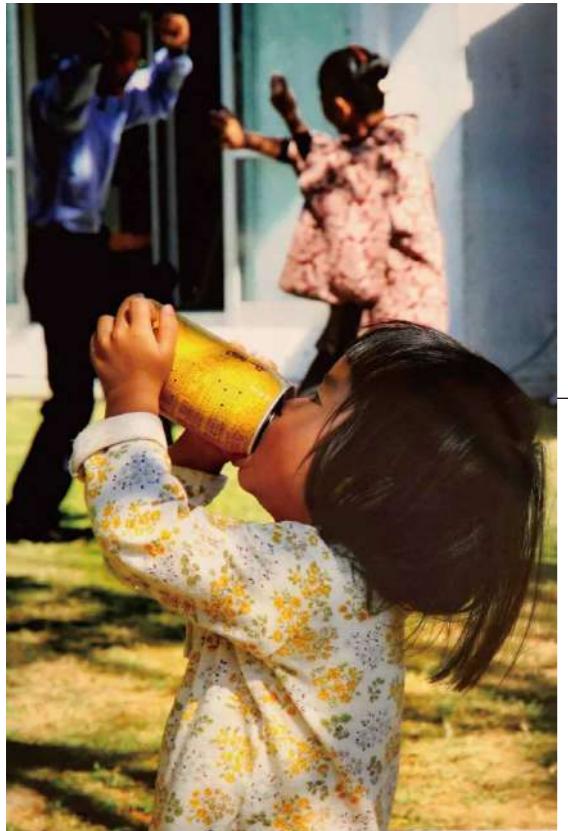
沖縄県文化振興会理事長賞 「The Tempest」

John H.Tien

一見して力のある人の作品であることが分かります。モデルを使い、ストロボやライトを駆使して光をコントロールしているので、作者はおそらくプロのカメラマンだと思います。

暗い背景に和装のモデルをバックライトで浮かび上がらせ、水しぶきを画面いっぱいに飛散させ、美しさに加えインパクトのある画面構成になっています。モデルさんのポーズ・表情、そして画面に対する大きさも適切だと思います。逆光と順光をうまく具合に融合させ作品を作り上げていますが、普段から手慣れた人でないとなかなかこのような演出はできないでしょう。撮影設備・撮影技術・演出力が無いと撮れない秀作です。ポートレートを撮っているアマチュアカメラマンにも参考になる作品だと思います。John H.Tien さんの今後の活躍に期待しております。これからも良い作品を見せてください。

講評担当者 喜名 朝駿



奨励賞 「グッと一杯」

安田 正昭

昼の宴に年長の男女が楽しげに祝いの最期のカチャーシーを舞う。その前方で小さな女の子が冷たい缶のさんぴん茶で勢いよく喉を潤す。絵に描いたような幸せな瞬間を写真に収めた。

着物と結い上げた髪で巧みに踊る女性は、指を揃え伸ばして踊る可憐な女舞い、ワイシャツ姿で片足を上げ、握った手を頭上でかき回す男性は、力強い男舞いで、宴のクライマックスのテンポの速い曲が聞こえてきそうだ。

計算され尽くした人物の配置と、陰影と色のバランスが絶妙で、女の子の少し汗ばんだショートヘヤーと、両手で支えた黄色い缶の傾きが喉の渴きを訴えて、今日の宴の熱量と嬉しさを最大限に表現しているように見える。

表情はよく見えないのでなぜか全員笑っているように感じる。それはこの作品を見た私たちがつい微笑んでしまうからであろう。

講評担当者 仲本 賢



奨励賞 「家族」

新垣 フミ子

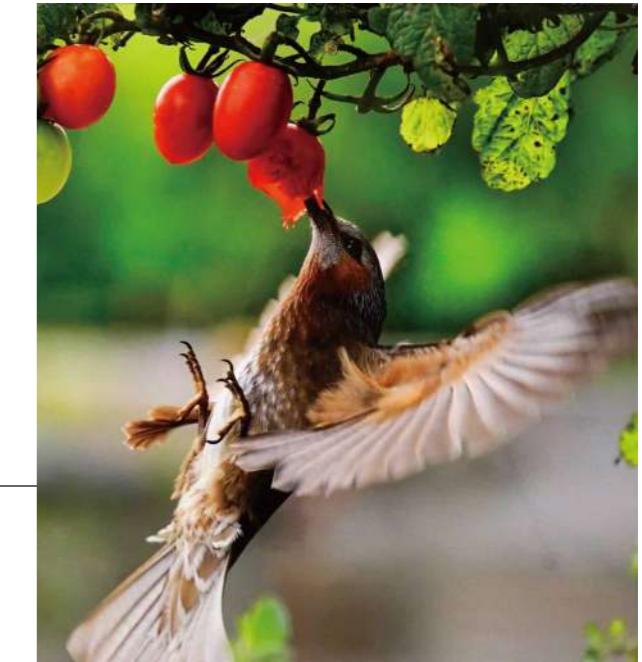
これまで闘牛の写真を多く撮っていますが、今回は豚親子の写真です。

お乳を飲む沢山の子豚とその親の表情、すやすやと寝る子豚達等。作者はオーナーと親しくなり撮影許可を得て、出産前から何度も通われ、いろいろな場面を撮影されており、親と子豚が触れ合う、安らぎのある一番楽しい時期の「家族」を組写真しています。

近年、人間社会では親が子供を虐待する事が多く報道されていますが、この作品をじっくり見ると、現在の社会状況(家族)を対比して考えざるを得ません。

作品をもっとよくするには親と子豚が無邪気に遊ぶ状況の見える写真等があれば、「家族」の表現に幅が出ると思います。これからも表現豊かな作品作りを目指し、さらなる上位を期待しています。

講評担当者 國吉 健郎



奨励賞 「空中の舞」

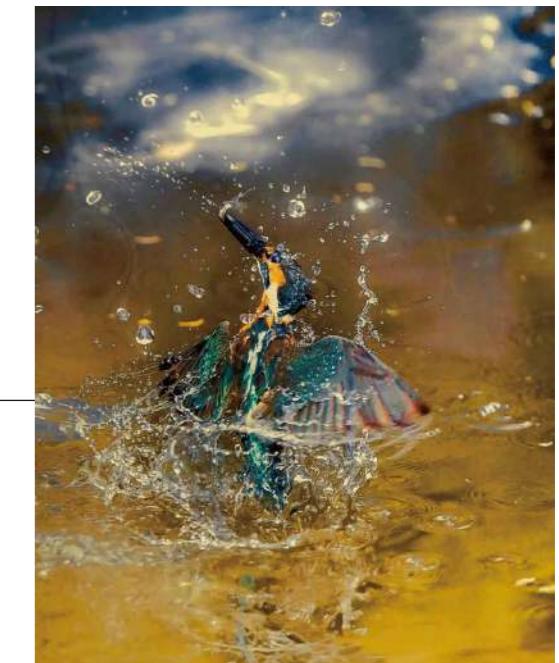
城間 由美子

ホバーリングで赤いトマトの実を啄むヒヨドリ(イソヒヨドリ?)。野生に生きる光景の一瞬をとらえた作品である。カメラアングルを草陰の隙間から構えて鳥の羽ばたき、くちばしの動きを高速シャッターで切り撮った。プリントで四角い構図に仕上げた感覚は鋭い。

野鳥の撮影には、シャッターチャンスを待つ忍耐力も必要であるが、被写体の習性を知ることも重要である。他にホバーリングして餌をとる野鳥はカワセミやミサゴなどもいるが、身近なヒヨドリに視点を向かえたことが傑作の誕生に結びついた、と言えよう。

来年、世界自然遺産登録を目指す沖縄地方にはヤンバルクイナなど数多くの固有種が生息し、季節ごとに数多くの渡り鳥も頻繁に渡来する。これからも、かけがえのない沖縄の美しい自然をテーマにした写真活動の継続とさらなる飛躍を祈念します。

講評担当者 山城 博明



新人賞 「水辺に輝く」

中村 秀雄

新人賞おめでとうございます。すばらしい作品に仕上りました。川セミが水あびしている様、跳っているように見える瞬間を撮っています。実に清々しい気分になる清涼感あふれる写真です。

構図に関しては右側と上辺の部分を少し多くカットし、右側に寄せる方が見栄が良いと思います。これからも良い作品を作って下さい。次回を期待しています。

講評担当者 松門 重雄

写真公募展作品一覧

■審査員出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
秘儀と云われた神迎え	51×62.5	単	安里 盛昭
記憶の中の残像	全倍	組	東 邦定
偶像と犠牲=来世のために=	150×100	単	浦本 寛史
夜の Naha Airport	115×155	単	喜名 朝駿
絆	80×110	組	國吉 健郎
指先で確かめた記憶	90×71.5	組	田中 瞳治
メルカトル・パノラマ 191101	100×70	単	仲本 賢
農夫	76×109	単	松門 重雄
波に咲く	75×105	単	山城 博明

■無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
アイヌの古謡と語り	72×62	組	國吉 倖明

■写真入賞作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
沖縄県知事賞 もう~歩けない	86×62	単	添石 鮎子	与那原町
沖縄県文化振興会理事長賞 The Tempest	61.4×72.4	単	John H. Tien	読谷村
奨励賞 グッと一杯	76.7×61.4	単	安田 正昭	那霸市
奨励賞 家族	115×80	組	新垣 フミ子	南風原町
奨励賞 空中の舞	75×69	単	城間 由美子	八重瀬町
新人賞 水辺に輝く	76×62	単	中村 秀雄	糸満市

■写真入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
聖観寺の火まつり	44×59	単	富村 盛信	那霸市
ほろ酔いな雨音	75×90	組	鈴木 康子	豊見城市
旧正月の浜比嘉漁港	92×77	組	伊藤 俊雄	宜野湾市
ヘアーアート	71×94	組	伊藤 俊雄	宜野湾市
都会のまなざし	72.5×61.5	単	与那城 純子	那霸市
光織りなす雨の市場	84×114	組	与那城 純子	那霸市
糸満ハーレー	86×107	組	屋富祖 良敬	那霸市
「漫湖の情景」/(赤・青・黄)	108×72	組	屋富祖 良敬	那霸市
旅立つ前に	61×71.5	単	長濱 大	豊見城市
ホノリング	98×52	組	中村 秀雄	糸満市
残雪のテント村	全紙	単	具志堅 興清	名護市
夕照	51×62	単	宮城 哲子	那霸市
漁師の父子	51×62	単	宮城 哲子	那霸市
雪国アラカルト	25.5×32.5	写真集	宮城 米子	中城村
光るゴンドラ	62×76	単	原国 政裕	豊見城市
収穫の喜び	109×64	組	名嘉 久美子	豊見城市
影遊び	80×103	組	名嘉 久美子	豊見城市
待ちくたびれた少年	76.7×61.4	単	安田 正昭	那霸市
火の鳥	51×62	単	金城 光男	西原町
ダンス・ダンス	51×62	単	金城 光男	西原町
御願	53×64	単	国吉 弘美	浦添市
平安座島サンゴワチヤー	40×156	単	牧志 盛吉	与那原町
夜空の華	84×70	組	牧志 盛吉	与那原町
炎の追想	80×111	組	玉城 健次郎	浦添市
母と子の時間	61×71	単	玉城 健次郎	浦添市
おやつタイム	57×78	組	又吉 英男	浦添市
自然の造形美	79×61	組	又吉 英男	浦添市

■写真入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
視線	76×62	単	仲吉 佑美香	南風原町
ハロウィン	62×76	単	仲吉 佑美香	南風原町
オバアたちの青春	52×63	単	知念 清市	今帰仁村
草原の民	78×129	組	我喜屋 功	那霸市
負の遺産(アウシュヴィッツ)	60×93	組	松本 達子	浦添市
ウチナーンチ ウシェーティナイビランダー	40×50	単	瀬底 真守	南城市
島に生きる	113×83	組	花城 雅孝	那霸市
アダン葉を編む	83×113	組	花城 雅孝	那霸市
ママより高く!	61×75	単	山内 千代美	読谷村
雛踏	64×85	単	儀間 生子	那霸市
ためらい	62×83	単	儀間 生子	那霸市
行楽日和	58×75	単	金城 文子	南城市
好奇心	62.7×47.5	単	幸喜 あかり	沖縄市
根怪	71×112	組	幸喜 あかり	沖縄市
一日の終わりに	78×60	単	長堂 哲	読谷村
百人御物参	80×154	組	おおき ゆうこう	南風原町
リンクスの朝やけ	62×51	単	又吉 全一	豊見城市
どの子にあげようかね	52×63	単	大浜 忠市	宮古島市
秋思	62×76	単	安里 涼子	那霸市
足元にアクセント	57×134	組	林 靖雄	北中城村
守られて	115×74.5	組	山田 恵美子	うるま市
海上を激走	60×100	単	高田 和泰	那霸市
女心	59×80	単	西平 守光	西原町
smile	51×62	単	永味 節子	中城村
お水取り	113.5×83	組	正木 スエ子	宜野湾市
紅葉の達津不動滝	61×72.5	単	正木 スエ子	宜野湾市
夕日を浴びて	72.5×61	単	正木 虎夫	宜野湾市
夕暮れ時	61.5×77.5	単	正木 虎夫	宜野湾市
黄昏時	62×73	単	麓 隼人	那霸市
生きる	62×51	単	大城 勝子	糸満市
地場産業ビーグ	109.5×76.5	組	當山 清裕	浦添市
おつかなびっくり	72.2×61.2	単	宮良 正子	うるま市
帰り道	72.2×61.2	単	宮良 正子	うるま市
夏の記憶	113×82	組	具志 明	八重瀬町
Life	113×82	組	具志 明	八重瀬町
ウンジャミ	85×113	組	島田 美佐子	うるま市
夜空の華	67.5×54.6	単	島田 美佐子	うるま市
今年もまた会えたね	80×103	組	みやら 文	那霸市
雨上がりの道	62.5×51.5	単	副田 保子	那霸市
光の道	60×110	組	島袋 進	浦添市
塩田の朝景	59×77	単	島袋 進	浦添市
釣人	59×77	単	島袋 陽子	浦添市
エアーポート (タイ)	110×63	組	島袋 陽子	浦添市
お兄ちゃん待ってよ～	64×53	単	本間 京子	糸満市
休息	61×75	単	宮城 美枝子	うるま市
夜桜	61×50.8	単	護得久 朝一	沖縄市
防火訓練	50.8×61	単	護得久 朝一	沖縄市
昭和のかおり	全紙	単	比嘉 佐智子	浦添市
風の刻	113×83	組	大城 敏雄	与那原町
若匠	60×75	単	大城 敏雄	与那原町
桜日和	72.5×61	単	柄澤 満郎	那霸市
釣れずとも美しき時	31×26.5	単	具志堅 一彦	宜野湾市
忘却の彼方	34×75	組	富永 由香	糸満市
光のファンタジー	58×78	単	知念 信雄	与那原町
Life is Wave	44.6×59.9	単	永山 直樹	沖縄市
シャボン玉飛ばそう	80.5×100	組	宮義 洋史	沖縄市
DARKNESS ON THE EDGE OF TOWN	31×31	写真集	宮義 洋史	沖縄市
桜日和	62×72	単	新田 みゆき	名護市
興味津々	62×72	単	新田 みゆき	名護市
ENERGY	51.2×62.2	単	安里 寿美	中城村
立ち話	52×62	単	仲程 梨枝子	那霸市
勇壯	62×52	単	仲程 梨枝子	那霸市
夕照(うみそらトンネル換気塔)	108×64	組	天久 昌子	浦添市
レース前	83×112	単	添石 鮎子	与那原町
職人技	113×70.5	組	砂川 悅子	豊見城市
クレーンの鶴ダンス	116×64	組	砂川 悅子	豊見城市
風景を写す	61×92	単	天久 ゆういち	宜野湾市
日のあたる坂道	85×60	単	天久 ゆういち	宜野湾市
生業	75×135	組	崎濱 慶子	那霸市
古の恩光	62.5×51.5	単	仲村 光代	浦添市
平和の祈り	51.5×62.5	単	玉城 律子	宜野湾市
京都... 秋	22.5×29	写真集	金城 直也	宜野座村
タンネリ	72.4×61.4	単	新垣 隆吾	与那原町
向き合う	72.4×61.4	単	新垣 隆吾	与那原町
モコ モコ モコ (ヒルギ科)	62.5×76.5	単	奥間 百合子	北中城村
夕闇彩る灯籠流し	113×83	組	親富祖 勝枝	浦添市
淡い光ゆらぐ夏の宵	53.3×64.3	単		

第48回 沖縄県芸術文化祭

美術公募展

美術 総評

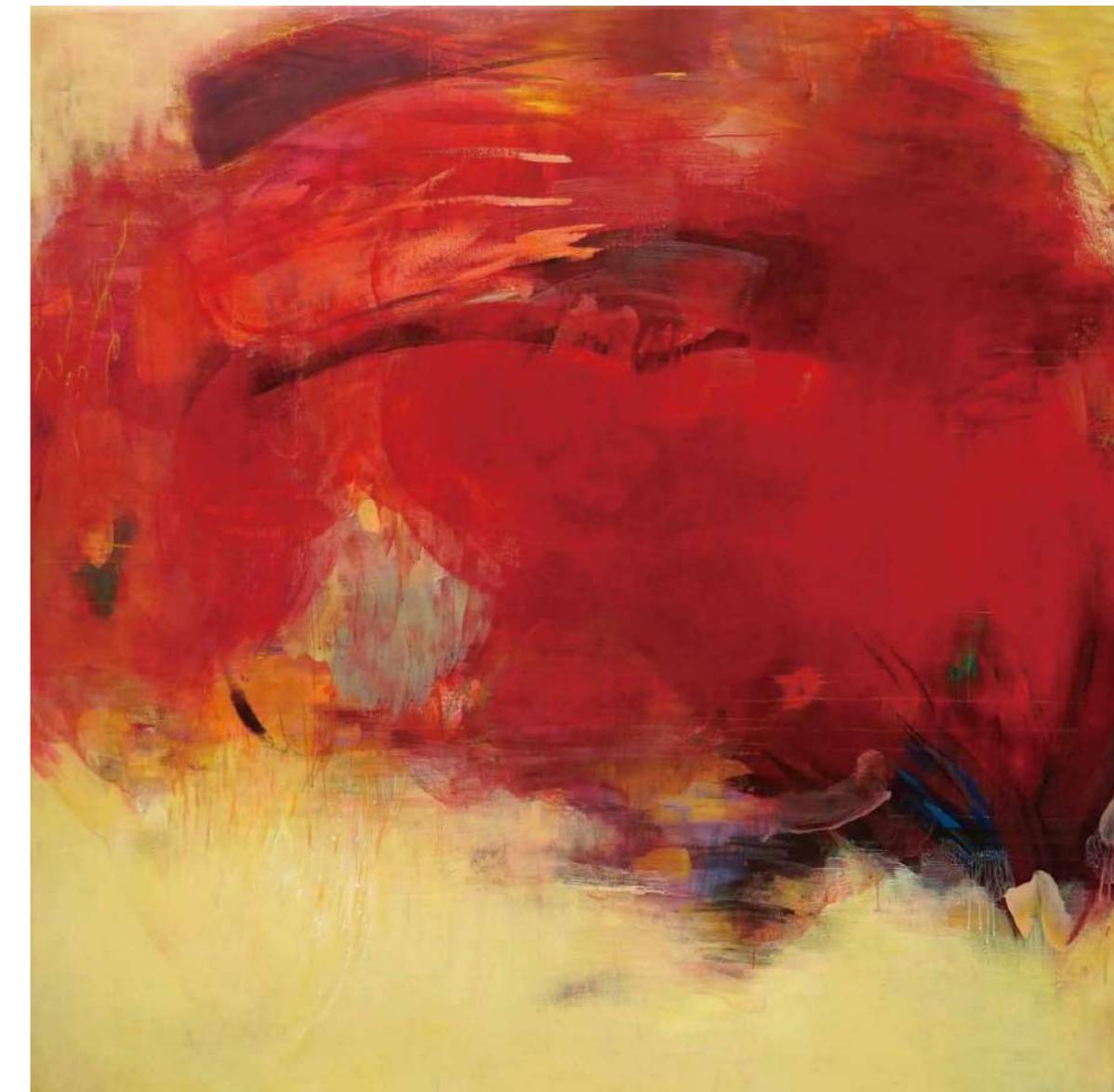
時代は令和へと移り慌ただしい中、公募展が始まった。公募作品の受付は9月20日(金)、21日(土)であったが、台風17号が沖縄へ最も接近し、20日の78作品の受付、21日は大雨や暴風の為、作品受付ができなかった。審査会は22日の午前から行う予定だったが、作品受付ができなかった出品者のため、午前中を作品受付とし、41作品が受付できたことは嬉しく思う。また、事務局の適切な判断と対応に、心から感謝を伝えたい。最終的には105名の出品者で119点の応募作品となり、平面作品が103点、立体作品が16点の出品となった。前年度より4点ではあるが作品数が上回ることは嬉しい限りである。

審査は午後1時過ぎから始まり、審査委員11名と事務局とで「美術公募展作品審査要領」の確認や、総見により応募作品の傾向を確認し、作品審査がスタートした。応募作品の作者の心象を読み取り、表現技法や画面構成など審査委員のそれぞれの視点や評価が重要である。119点の応募作品を確認、審査委員の過半数が挙手する作品を入選とし、優れている作品に対しては賞候補として推薦する流れで進めていった。その結果、74作品が入選(賞候補も含む)となった。次に、賞候補として推薦された作品22点を審査委員の過半数での挙手を2回行い、10作品まで絞り込んだ作品を審査委員の全会一致で賞候補作品とした。その後2回の投票で5作品まで絞り、更に3回の投票で沖縄県知事賞や各賞を決定した。確認すると、賞候補の22点から7回の挙手や投票により各賞を決定した流れは、優秀な作品が多く、公開審査を行う中、公平かつ厳選な審査のもと進めてきたことが理解できると思う。

最高賞の沖縄県知事賞には、齋悠記氏の「愛の存在」が受賞しており、赤の色面は感情の動き、思いが湧き出すエネルギーのように感じられる。大胆な配色に対し、額装を使用せず、作品のエッジを取り、丸みを持たせながらその厚みまでも作品の延長上とするなど、繊細な表現が見て取れる。審査委員からの評価が高く沖縄県知事賞となった。沖縄県文化振興会理事長賞には、福田直樹氏の「Other」が選ばれた。氏の作品は、真鍮の立体作品であり、人間の苦悩、悲しみなど感情を搖すぶられる。皮膚が裂け、脊髄があらわになり、何者かの変態を想像するかのような・・・重苦しいが、見る者を引き付ける力強い優秀な作品として評価された。奨励賞には、平川宗信氏の「黒い森」、與那覇勉氏の「地相V」、松本幸昌氏の「記憶たちの森」が受賞となった。新人賞は、受賞歴のない賞候補作品から浦田健二氏の「Girl A」が受賞した。各受賞評価は、担当審査委員の講評で確認をお願いしたい。

この公募展は第48回となり歴史的背景からも必要で、文化における芸術の重要性と現代社会における癒しを考える。優れた芸術作品を是非、鑑賞していただきたい。また、出品者の一人ひとりの熱意や表現に感謝し、今後の活躍を願い、私の総評とする。

美術部門審査委員長 赤嶺 雅



沖縄県知事賞 「愛の存在」

齋 悠記

ここ数年、目が離せない作家で、作品の勢いそして存在感と進化を感じる。一昨年の新人賞に続き、今年の県知事賞受賞は快挙である。

作品「愛の存在」は、大胆な構図と力強さの中にも優しさを感じ、審査会場でひとときわ目立った。

朱をベースに、色数を極力抑え、しかもシンプルで力強いストローク、そして思い切った表現が、下地の黄味を帯びたキャンバスと妙にマッチし、鑑る側へ静かにかたりかけてくる。最終的には、技術よりも培ってきた作家の感性がより自信へと繋がり、作品を「かたち」創っている。

そして以前からキャンバス作りには独自のこだわりがあり、四面の角を削り枠を丸めている。そのことで表現しているテーマと絶妙な相乗効果を生み出し、より上質な作品へと高めている。勢いを止めず、今後益々の展開、活躍に期待する。

講評担当者 川平 恵造



**沖縄県文化振興会理事長賞
「Other」**

福田 直樹

70cm 立方の小サイズ、かつ、うずくまる人物ポーズでありながら発する豊かな量感と空間の緊張感。そこに見える、的確なデッサン力と、切れ味鋭いデフォルメの力。

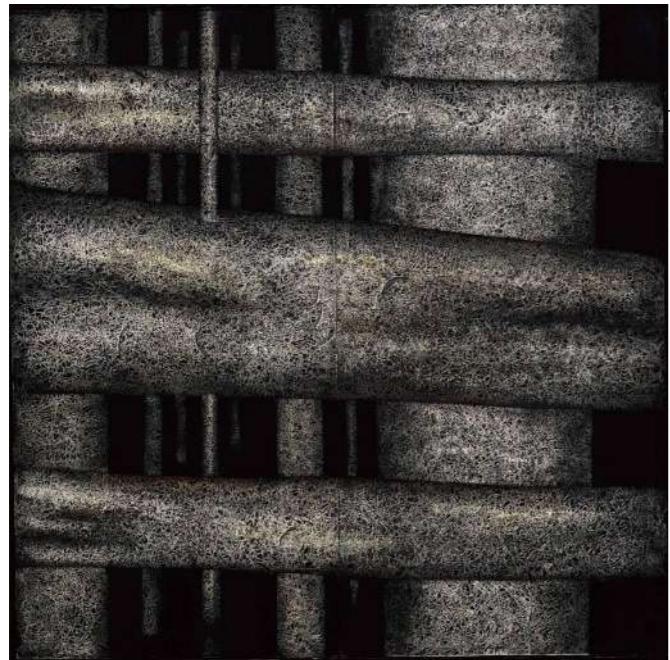
幾層かあるとも見える真鍮の薄い被膜。その金属物質としての質感の美、加えて色彩の微細な変化の美しさ、なまめかしい溶接の隆起。全体構築からディテールにいたるまで、徹底傾注された繊細な表現感性が浮き上がる。

自らを突き裂く骨格、背と頭を掴む手指の焦燥、踏みしめる足指の切迫、金属亀裂の透き間の奥には、孤独の闇を想起させるかのような空洞。

タイトルの「Other」に秘められたものは、現代社会に巣くう「疎外」の痛みであろうか。

繊細と強靭、最高賞であっても遜色ない美しい金属人体作品が、現代に潜む負の部分への考察を、見る我々に静かに迫る。

講評担当者 大城 讓



**奨励賞
「黒い森」**

平川 宗信

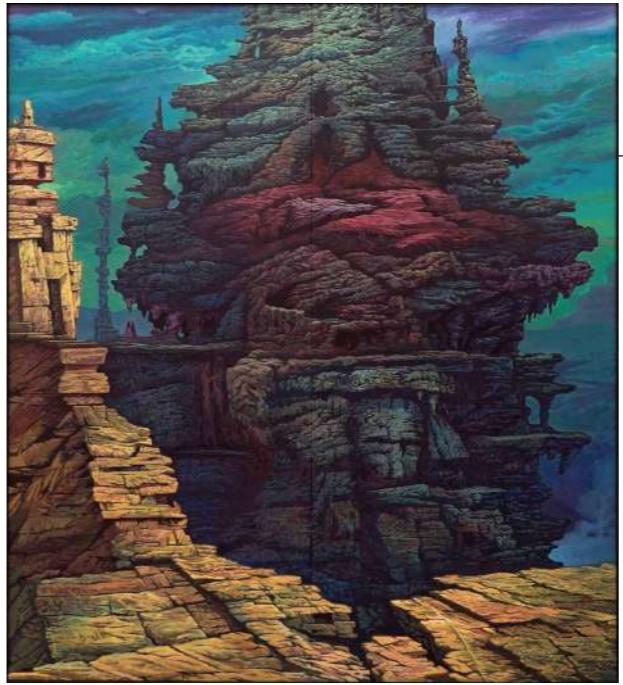
存在感のある作品である。大木の幹で構築された格子の前に思わず佇んでしまう。横軸の幹にくいくみ刺さった縦軸の幹は画面に緊張感をもたらしており、作者のこれまでの作品にはない試みが見て取れる。

モノクロームのグラデーションの色彩効果は画面に静けさをもたらしているが、「黒い森」の奥深く霞む、わずかな赤の色調は静寂の中、空気の流れや霧の漂いを感じるようだ。心象的表現の半具象画であろう。

全体から細部に視点を移すと、樹木表層の膨らみ、窪み、突起、陰影、などに作者の描写力が際立つ。独特な引っ掛け・刻みの技法で幾重にも重なる線は繊細で細密であり、基調色（緑、ブルー、黄色、赤、墨）のパルールが味わい深い空間を醸している。人体の蠢きすら想像させる。

作品に引き付けられる所以は、作者の画法にあり、長年にわたり修練され熟知されたものである。斬新な発想と創造する姿勢、エネルギーに賛賛し敬服する。

講評担当者 宮里 昌信



**奨励賞
「地相 V」**

與那霸 勉

画面全体を覆い尽くす青色の世界に魅込まれた。青色の中に抑制された赤や、様々な色がモニュメントのような巨大な塔を形成している。

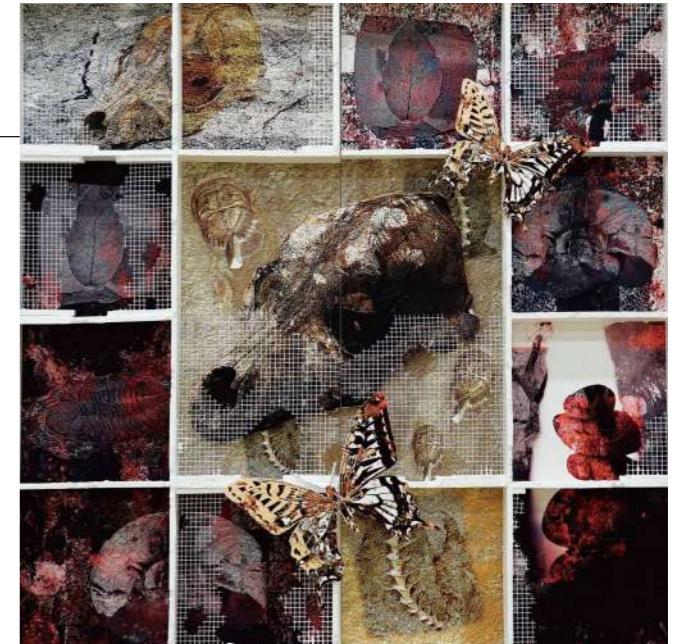
地相シリーズを発表し続けている作者は、造形の堅牢性が、長い歳月を経て朽ち果てていくもろさを石塔の中に表現したかったのだろうか。手前の建造物は、現在で奥の過去への遺物へと繋がる悠久の時の流れも伝わってくる。

地殻変動を含め、昨今の災害の数々は、破壊されていく地球の未来への繋がりを暗示している、想像力の広がりをかき立ててくれる作品である。

作者の筆致のすばらしさに感心すると共に、隅々まで描き込まれた細心さと、構図のダイナミックさもしかりである。

今後の作品の展開も大いに期待したい。

講評担当者 上原 成美



**奨励賞
「記憶たちの森」**

松本 幸昌

ミクストメディアによる松本氏の作品は、アンモナイトや三葉虫といった化石をデジタルプリントで出し、人工的で不安定な軽い発泡スチロールを敢て仕切りとして使用した標本箱のような空間に、太古の地球の記憶として収めたものである。これらの記憶のコレクションが何を意味するかを、一つ一つのピースを繋ぐことで、見る者が読み解いていく面白さがある。中央のイヌ科の動物の頭蓋骨は生物の進化とともに、環境破壊を導いてしまう人間が辿る運命を象徴しているかのようである。バランスのとれた構成にもかかわらず見る者の心の奥底に一種の違和感を与えていた。この「記憶たちの森」の箱の外にとまっているアゲハ蝶の羽の変色していく表現は、作者の解き放たれたいという自由への希求と、浸食されつつある自然環境や消費社会への警鐘である。見るものに多くの記憶と感情を呼び覚ます大作である。

講評担当者 仲嶺 香代



**新人賞
「Girl A」**

浦田 健二

2点入選の最初の1点である。傷つきやすい繊細な少女の揺れ動く内面をリアルなデジタル処理した実写風な作品である。ガラスの破片が突き刺さる様で可憐な少女が痛々しく見える。コラージュされた厚みのあるカットされた透明アクリル板が、角度によっては屈折して異なる変化がさらに効果的である。バーチャルリアリティを彷彿させる画像技術が現代的である。アニメ表現的な大きな眼が強烈であるが真正面から直視する少女の凛とした強さと優しい弱さが垣間見える。洪水のように溢れる情報に惑わされず未来をどのように描いて生きていくかが問われているような気がする。新たにクリエイティブな表現を展開した今後の作品に期待したい。

講評担当者 佐久本 伸光

美術公募展作品一覧

■審査員出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
記憶の欠落	93x121	平面	紙・顔料インク	赤瀬 雅
燐	S100号	平面	アクリル	上原 成美
Pride?!	200x62	平面	板・アクリル	大城 譲
風景の中で	90x150	平面	アクリル	大浜 英治
夏シリーズ	200x166	平面	アクリル	川平 恵造
漫食	105x75	平面	水彩	具志堅 誓謹
潮流のラビリンス	F30号	平面	アクリル	佐久本 伸光
«自画像»	116.17x90.19	平面	油彩	中島 イン子
咲払い	165.5x165.5	平面	顔彩	宮里 昌信
MY SPACE メタルシリーズ	90x180	平面	ミクストメディア	屋良 朝彦

■無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名
Emotional	F100号	平面	アクリル	池原 優子
Woman	40x30x30	立体	乾漆	玉那霸 英人
fabrication	186x186	平面	ミクストメディア	知念 秀幸
羅漢	F50号	平面	油彩	鶴見 伸
点と位置と	194x162	平面	アクリル	與那嶺 芳恵



■美術入賞作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
沖縄県知事賞 愛の存在	182x182	平面	アクリル絵具、 パステル・オイル、 パステル・パネル	齋 悠記	沖縄市
沖縄県文化振興会理事長賞 Other	70x70x70	立体	真鍮	福田 直樹	那覇市
奨励賞 黒い森	189x189	平面	油彩	平川 宗信	沖縄市
奨励賞 地相V	195x175	平面	アクリル	與那覇 勉	与那原町
奨励賞 記憶たちの森	180x180	立体	発泡スチロール・紙	松本 幸昌	那覇市
新人賞 Girl A	90x90	平面	インクジェット アクリル板	浦田 健二	糸満市

■美術入選作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
帰り道	128x102	平面	水彩	泉 朝順	西原町
記憶の形象ーあの日	30x48x70	立体	陶土	神村 吉次	那覇市
Samsara	187x188	平面	水彩	山本 英二	浦添市
天才暗号神様の 天才暗号政策	162x130	平面	油彩	宮城 和邦	大宜味村
線量計が鳴りやまない	90x90x60	立体	陶器	伊志嶺 達雄	名護市
温	180x170	平面	アクリル、 インク、油彩	比嘉 孝	読谷村
ゴールマ遊び	130x162	平面	油絵	仲本 潤一郎	沖縄市
沖縄・Big Chain	184x187	平面	アクリル、 その他	砂川 恵光	浦添市
シーサーと廃家	194x130,3	平面	油彩	大城 春信	那覇市
彩	162x130	平面	油彩	八木 洋子	うるま市
Deep in A Dream	170x120	平面	油彩	添石 良健	沖縄市
幾星霜	93x123	平面	水彩	大城 昌光	那覇市
集	93x118,5	平面	油彩、アクリル	ヒガ タカシ	読谷村
憂える街々	90x180	平面	紙 アクリル アルミ 皮など	石原 美智子	与那原町
根動	105x85	平面	水彩	崎野 欣二	那覇市
カタヅイの軌跡	180x180	平面	アクリル	伊元 隆一	読谷村

■美術入選作品

題名	サイズ	種別	材質	氏名	市町村
私の大切な大切な花	75x75	平面	木版画	座喜味 盛亮	名護市
セノーテ(maya)	196x163	平面	油彩	仲宗根 勇吉	沖縄市
私は言葉	133.5x196.3	平面	アクリル	伊芸 匠志	うるま市
窓の外	60x85	平面	デジタルイラスト	饒平名 飛鳥	豊見城市
整備中	60x85	平面	デジタルイラスト	饒平名 飛鳥	豊見城市
全世界網羅ART (ウチナー初)	199.5x199.5	平面	油性ペン	与那覇 俊	豊見城市
『I LOVE YOU』	60x90	平面	木モセメント版 しつくい 墨	上原 則雄	那覇市
落陽	197x165	平面	油彩	砂川 秀勝	那覇市
街の記憶	60.8x45.8	平面	木版画	安次嶺 勝江	西原町
梅雨の香り(イジュの花)	127.5x91.0	平面	水彩	石川 恵子	西原町
憧憬	142x77	平面	マット紙 (iPadで作成印刷)	長谷川 まさし	浦添市
泉	116x126	平面	日本画	仁添 まりな	北谷町
グアッハラ	147x114	平面	油彩	カガミ ジョージ	那覇市
都会の孤独さ	197x197	平面	油絵(ベニヤ)	石川 哲子	うるま市
紡の女	115x180	平面	油絵	宮国 米男	浦添市
ファンタジー	183x182	平面	油彩、木くず	嵩原 武子	本部町
つながり	194x162	平面	アクリル	仲座 包子	中城村
シルバーホライゾンⅡ	166.5x116	平面	油彩	糸洲 英子	豊見城市
山原路	170x121	平面	油彩	親泊 光子	与那原町
苦しさはいつか必ず終る	100x163.5	平面	油彩	源河 秀美	うるま市
再びチャレンジ	61x73	平面	油彩	長谷川 正昭	沖縄市
嘘ついてないよ!	61x73	平面	油彩	長谷川 正昭	沖縄市
サバニとネコの島	146x113	平面	アクリルグワッシュ	新屋敷 孝雄	読谷村
見上げるとヒバリ れんげの花揺れる頃	172x127	平面	アクリル	崎浜 恵子	那覇市
生魂流転・刻々 (父にささぐ...!)	185.5x95	平面	鉛筆	饒平名 知健	西原町
Out of bed	90x90	平面	インクジェット アクリル	浦田 健二	糸満市
幻の人魚	200x150x250	立体	影絵	知念 仁志	浦添市
褐流	200x200	平面	アクリル	並里 幸太	本部町
港口	133x97	平面	油彩	下地 良男	那覇市
琉宮の入口	188x155	平面	アクリル	瀬長 洋一	那覇市
鏡花水月	133x107	平面	水彩	千賀 ちか	中城村
多面体の再生	70x80x70	立体	アルミ 他	中澤 将	浦添市
出番待ち	92x110	平面	油絵	下地 りえこ	那覇市
無題	116.7x91	平面	アクリル	叶 秀樹	浦添市
ユニコーンの 燃える心臓	62.5x45x9	立体	粘土	比嘉 雄太	与那原町
深呼吸2018	165.2x133.8	平面	布 紙 染料	仲地 華	沖縄市
ヤンバルクイナ (モノクロ)	91x72.7	平面	水墨 水彩 紙 インク ペン	島袋 大輔	南風原町
さんいんの詩	146x113	平面	アクリル	屋良 節子	宜野座村
彼方	195x185	平面	アクリル	比屋根 清隆	沖縄市
樹 雪	186x95	平面	水彩	比嘉 博	南風原町
森のプレリュード	134x166	平面	アクリル	喜屋武 信子	沖縄市
未来を見据える	47.5x62.5	平面	銅版画	大城 操	うるま市
「愛は勝つ」	120x180	平面	きり絵	本間 優子	うるま市
南風吹く金武湾	49x90	平面	水彩(アクリル)	比嘉 克啓	金武町
Libra	157.5x157.5	平面	油彩	渡辺 幸夫	那覇市
ありがとう	50x50x100	立体	木	仲村 春孝	宜野湾市
家族計画	185.4x186.4	平面	油彩	伊禮 亮	嘉手納町
深海	60x90	平面	アクリル	中里 のぞみ	豊見城市
ちぶるヒーボー	90x90x90	立体	漆喰	平敷 傑	沖縄市
important	70x50x30	立体	鉄 銅	范 逸宸	那覇市
覗く瞳	160x160x120	立体	鉄	翁長 瞳	那覇市
響む瀬	75x75x120	立体	鉄	村松 優実花	那覇市

第48回 沖縄県芸術文化祭

書道公募展

書道総評

審査は、昨年から県民ギャラリースタジオ・県民アトリエ・子供アトリエにて審査員11名で行なっている。

今年は123点の応募があり、昨年より1点減で、点数的にはほとんど変化ないが、出品作品については、漢字、かな、近代詩文書、調和体、篆刻以外に、刻字、前衛作品が計6点あった。

しかも、この6点は全員入選した。練度高いとは必ずしも言い難いが、入選に十分値する作品である。

今年から審査票集計にPCが導入され、午前中に総見と入選の鑑別を終えることが出来た。

審査員の挙手による入選の鑑別では、過半数は6点で、6点以上得点の作品が83点あり昨年の展示実績を踏まえ4点以上の109点を入選と決定した。

午後から入賞の審査に入る。7点以上得点した作品を再覧して審査員に賞に値する作品に賞候補の発声をもらうこととした。その結果14点の作品に賞候補の声が上がった。漢字8点、かな4点、篆刻2点である。14点の作品を壁面に掛けまず持点7で投票した結果、下方4点を落とし、10点に絞った。そして持点6で投票し下方3点を落とし、さらに持点5で投票し下方2点を落とし、5点まで絞った。残った5点から持点3により高得点の物から各賞を決定した。

今年の県知事賞受賞者は、書道部門初の離島からの出品者である。離島からの出品者の励みになり、これをきっかけとし多くの離島にお住いの方々の出品に繋がることを期待している。

書が芸術である以上、多岐にわたる表現があって良い。前衛作品は、なかなか線筆のよい良作であったが、刻字に関しては、木材にノミを入れる、その深みある魅力が出せるような技法に関し、より一層研鑽を積んでもらいたい。

漢字、仮名、篆刻は、全て「まくり」で提出するよう出品要項に明記されている。刻字作品搬入時、一部刻字作品で刻した木材が板に貼り付けて出品された作品があった。審査において、本来作品の形態が如何に異なっても、同一条件に行われるべきである。刻字は刻した木材のみでのエントリーとすることに注意してもらいたい。

人の心を動かす作品、それが類型化された作品にはそれがない。各自臨書に励み、心象を磨いて磨いて、色々な芸術に触れて得た、自分だけの感性を筆と墨と紙にぶつける。それが書道である、と私は思う。

書道部門審査委員長 豊平 峰雲



沖縄県知事賞

「芭堂が海塩に帰るを送る
十二月十日雨に広州を發す
上春の理心堂」

田福 宏美

羊毛を駆使し、潤滑の表現が豊かで、文字群の処理がとにかく面白い。120文字がさまざまな顔で並ぶ中で、その場所にそのあるべき姿で文字が自然と存在するようだ。

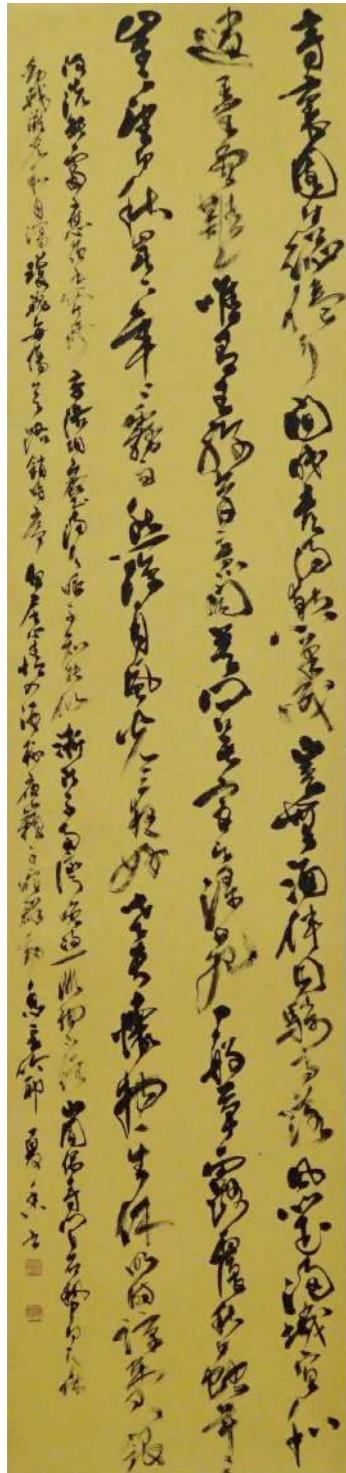
主文の3行は、中字よりやや太めの表現で力強く、後半2行はそれを支える細字で、そのコントラスト良く5行自然に程よくまとまっている。薄く書かれた罫線は、作品をまとめる罫線としては十分に役立っている。

若干文字に野性味を感じるが、それもこの作品の味を引き立てているエッセンスだ。

特筆すべきは、離島からの出品者が県知事賞に輝くのは、本文化祭始まって以来の快挙である。

初入賞で県知事賞受賞、おめでとう。これからもますます研鑽を積んでもらいたい。

講評担当者 豊平 峰雲



**奨励賞
「秋風」**

宮本 康申

この作品は、弾力性に富む貉毛の剛毛筆で揮毫した作である。含墨力に乏しく運筆に熟練を要するが、墨量と筆圧・緩急と抑揚を上手くコントロールしながら筆脈を通した行草の連綿体である。文字には大小の変化をつけて行間にうねりを作りリズム化され、まるでご自身が得意な詩吟を奏でているような感のする力作である。さらなるご研鑽・ご精進を期待します。

講評担当者 仲里 光雲



**沖縄県文化振興会理事長賞
「漢詩三首」**

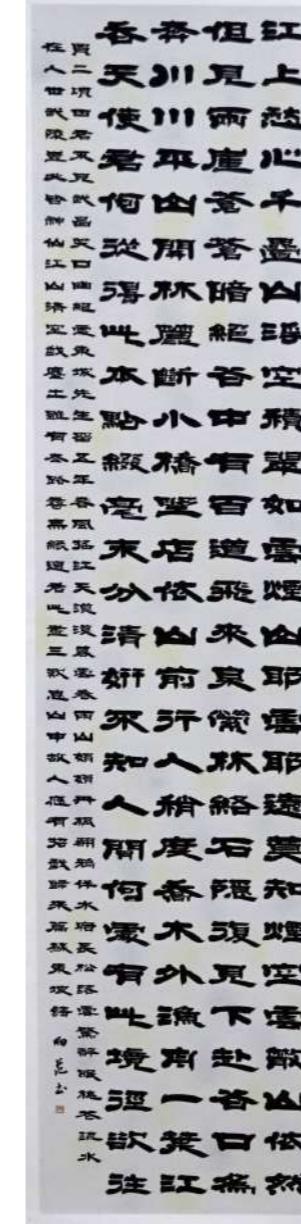
島津 和美

第46回展に続き、二度目の理事長賞を受賞されおめでとうございます。先ず最初に、料紙の色に負けない線の強さと墨色の鮮やかさに魅了されました。三行の大字と二行の細字のバランスが良く、作者の感性の良さを感じられる好作品です。

最近の書展では、大字と細字を組み合わせた作品が多く出品されますが、実力の問われるむつかしい作品構成でもあると思います。

これからも益々精進され、又素晴らしい作品を書かれますよう祈念致します。

講評担当者 我部 玉萩



奨励賞

「王定国の藏する所の
「煙江疊嶂図」に書す」

湧田 市子

一書は人なり—

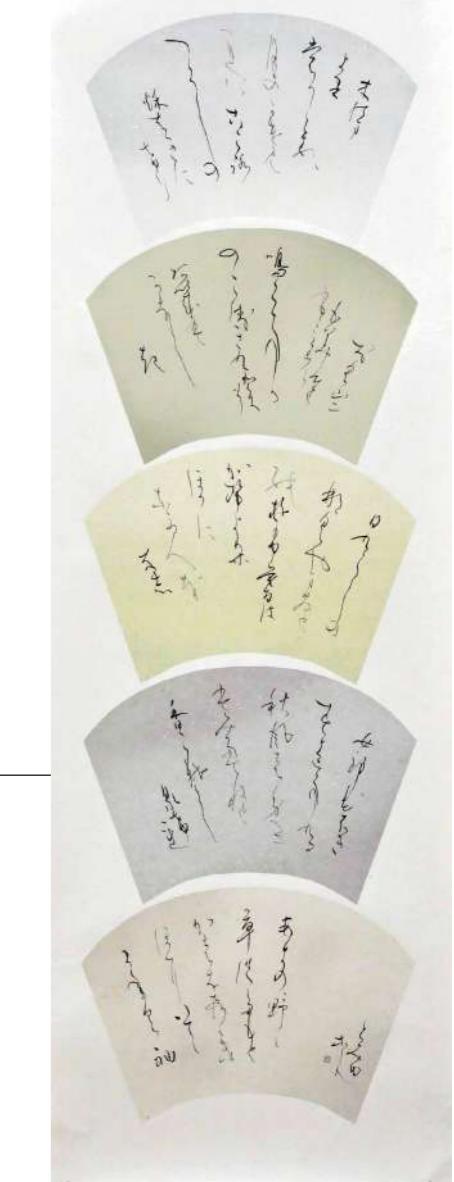
中国北宋時代の政治家であり、詩人、書家である蘇東坡の詩を大字四行細字二行にまとめ上げた隸書作品、その隸書体の特徴である扁平、水平、平行が保たれ、行間ごとの横への連携もそつなくこなし調和がとれている。

また、あえて一画一画の線の太さを統一する事により、大胆さ、重厚さを生み出し、それに反して、細字二行は厳正で緻密な字形はより大字四行を引き立て相乗効果をもたらしている。

隸書作品は、ややもすると堅苦しくなりがちだが、気負いなく、自然体で表現されているのは作者の長年のキャリアと謙虚な人柄から生まれた“作者そのもの”だといえる。

今後更なる精進を重ね、多様な作品にチャレンジしてほしい。

講評担当者 運天 南暘



奨励賞

「秋の歌五首（古今和歌集より）」

當間 秀美

「かな書」は、漢字書の構築美に対して、流動美と言われる。続けて書く（連綿）ことによって生まれる文字群の流れを限られた一つの空間の中にどう配置する（散らす）かが重要なポイントになる。何行も横に展開してゆく時は、その行間が単調にならない工夫も必要である。“間”的取り方が大事。

この作品、一枚の扇面に和歌一首を散らし書きにし、五枚を縦に並べて一組の作品としてある。一枚ずつ独立した作品として、それぞれ異なる散らし方で観る者を引きつけつつ、五枚全体の統一感にも気を配り、かな作品ならではの表現を存分に楽しめてくれる。

手慣れた書きぶりで安定した運筆は、これまでの地道な努力のたまものであり、今後もより魅力ある線を目指してさらなる精進を重ねられることを期待します。

奨励賞受賞おめでとう。

講評担当者 小杉 純南

書道公募展作品一覧

■審査員出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
平安計画	D	篆刻	東江 順子
令月和風	A縦	漢字	新川 泰仙
五言対句	B縦	漢字	運天 南暘
書経	C	漢字	我喜屋 明正
登樓	A縦	漢字	我部 玉萩
待ちし秋	B横	かな	小杉 純南
語句	A縦	漢字	渡名喜 溪水
東望望春春可憐更逢晴日柳含煙	A縦	漢字	豊平 峰雲
支硎山にて再び文交木太守を錢る	A縦	漢字	仲里 光雲
虚心坦懐	A縦	漢字	福原 瑞堂
坂村真民の詩を	A縦	調和体	村山 穂舟

■無鑑査出展作品

題名	サイズ	種別	氏名
元好問詩	A縦	漢字	上門 かおり
康樂	B縦	漢字	神山 律子
有職故實	D	篆刻	金城 多美子
寒山詩	A縦	漢字	島尚美
時に	B横	かな	新里 明美
松樹千年の翠	A縦	漢字	砂川 榮
見月	A縦	漢字	高江洲 朝則
蔡大鼎詩	A縦	漢字	仲舛由美子
朝霧	B縦	漢字	中村 裕美
杭淮詩	A縦	漢字	西蔵盛 英雄
日本のうた	B縦	調和体	眞喜屋 美佐

■書道入賞作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
沖縄県知事賞 芭堂が海塙に帰るを送る 十二月十日雨に広州を発す 上春の理心堂	A縦	漢字	田福 宏美	石垣市
沖縄県文化振興会理事長賞 漢詩三首	A縦	漢字	島津 和美	名護市
奨励賞 秋風	A縦	漢字	宮本 康申	西原町
奨励賞 王定國の藏する所の「煙江畳峰図」に書す	A縦	漢字	湧田 市子	沖縄市
奨励賞 秋の歌五首 (古今和歌集より)	B縦	かな	當間 秀美	那霸市
新人賞 該当者なし	—	—	—	—

■書道入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
李白詩	A縦	漢字	仲宗根 司	沖縄市
石蒼舒醉墨堂蘇東坡詩	A縦	漢字	喜納 八重子	読谷村
棧道中作他二首	A縦	漢字	長堂 加代子	読谷村
寒山詩	A縦	漢字	川上 タケミ	北中城村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	宮里 えり子	浦添市
夏日漫書	A縦	漢字	前田 多賀子	那霸市
杜甫詩	A縦	漢字	島田 直子	うるま市
越州の張中舎の寿楽堂	A縦	漢字	永山 千里	那霸市
晩に岳陽に泊す 他二首	A縦	漢字	大田 安子	西原町
沈佺期	A縦	漢字	兼島 直美	八重瀬町
蘇東坡詩	A縦	漢字	金城 美恵子	沖縄市
戯子由	A縦	漢字	新垣 恵津子	嘉手納町
彭澤雨泊有懷陶公 木末亭作	A縦	漢字	未吉 とみえ	浦添市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	徳里 美代子	嘉手納町
蔡大鼎詩	A縦	漢字	香村 春乃	読谷村
和陶	A縦	漢字	嶺井 由起子	那霸市
蘇東坡詩	A縦	漢字	藤田 史穂子	那霸市
舟次湖口	A縦	漢字	新垣 絹枝	那霸市
石鼓歌	A縦	漢字	新垣 貴子	那霸市
雨夜懷其年園居 外一首	A縦	漢字	仲原 真津枝	宜野湾市
送葉書山先生帰里 其三	A縦	漢字	津嘉山 典	うるま市
蘇東坡詩	A縦	漢字	與那霸 律子	宜野座村
歲暮感懷以餘年詠無幾休日愴已追爲韻(陸游詩)	A縦	漢字	上原 好美	読谷村
宿唐洞寺	A縦	漢字	山里 榮子	西原町

■書道入選作品

題名	サイズ	種別	氏名	市町村
蔡大鼎詩	A縦	漢字	比嘉 さつき	沖縄市
和姚子敬韻	A縦	漢字	森 さゆり	那霸市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	川中 留美	浦添市
銅雀臺 他一首	A縦	漢字	天久 美津枝	読谷村
紅樓院應制	A縦	漢字	桑江 美恵子	宜野湾市
蘭亭の故居	A縦	漢字	島袋 園子	那霸市
「判花軒」他一首	A縦	漢字	長嶺 朝弘	那霸市
杜甫詩	A縦	漢字	比嘉 勝子	うるま市
高啓詩	A縦	漢字	伊佐 直美	宜野湾市
高青邱詩集	A縦	漢字	神里 和子	南風原町
寒山詩	A縦	漢字	伊波 エツ子	読谷村
蘇軾詩 二首	A縦	漢字	真栄田 義之	那霸市
贈江皋陳子 他二首	A縦	漢字	金城 綾子	八重瀬町
寒山詩	B縦	漢字	富山 美智子	宜野湾市
蔡大鼎詩	A縦	漢字	奥濱 喜美子	浦添市
岳陽樓	A縦	漢字	平良 浄太	南風原町
詠懷寄趙君	A縦	漢字	上原 啓子	糸満市
解組帰隨園 他一首(組を解いて隨園に帰る)	A縦	漢字	謝名堂 奈緒子	うるま市
寒山詩	A縦	漢字	仲村 冴子	沖縄市
「夜座」他漢詩三首	A縦	漢字	金城 功	南風原町
琉球漢詩	A縦	漢字	玉那霸 明美	与那原町
蔡大鼎詩	A縦	漢字	古賀 日奈子	西原町
秋興	A縦	漢字	与儀 好子	那霸市
杜甫詩	A縦	漢字	川上 秀子	北中城村
禮記(曲禮)	A縦	漢字	豊平 美奈子	豊見城市
李太白詩	A縦	漢字	伊禮 かおる	豊見城市
清聰	A縦	漢字	下地 京子	宜野湾市
蘇東坡詩	A縦	漢字	宮城 律子	宜野湾市
秋夜長し 他一首	A縦	漢字	宮城 政子	西原町
蓮を種える 外二首	A縦	漢字	根路銘 昭子	那霸市
高啓詩	A縦	漢字	有銘 盛吉	宜野湾市
丙寅六月吳子往の荻秋菴を過ぎる	A縦	漢字	小橋川 斎子	那霸市
寒山詩	A縦	漢字	與那霸 初子	北谷町
趙孟頫詩	A縦	漢字	宮城 みち子	中城村
李白詩	A縦	漢字	屋良 美香	沖縄市
烟火を放つ者に贈る	A縦	漢字	島袋 みゆき	那霸市
山陰道中三首 其一 他二首	A縦	漢字	亀ヶ谷 牧子	那霸市
寒山詩	A縦	漢字	屋良 知絵未	宜野湾市
漢詩五首	A縦	漢字	眞壁 恵子	宜野湾市
美ゆき	B横	かな	仲里 美智子	宜野湾市
秋の夕ぐれ	B横	かな	儀間 廣子	浦添市
秋くさ	B横	かな	渡慶次 喜代美	嘉手納町
長崎にて一茂吉のうた	B横	かな	志田 美代子	浦添市
さくらびと	B横	かな	比嘉 栄子	北中城村
あきの野	B横	かな	仲実 琴子	沖縄市
龍田川	B横	かな	饒平名 真由美	那霸市
草庵の	B横	かな	喜友名 晴香	北中城村
夕立	B横	かな	宮里 梅子	宜野湾市
方丈記より	B横	かな	伊波 正明	うるま市
秋の歌	B横	かな	下地 郁子	浦添市
桜花	B縦	かな	宣寿次 政代	うるま市
九月の	B横	かな	喜友名 正子	北中城村
夏のしののめ	B横	かな	渡名喜 香代子	浦添市
はづ聲	A縦	かな	安座間 賀子	うるま市
水無月の空	A縦	かな	宮城 多佳子	浦添市
秋の月	A縦	かな	新垣 克子	那霸市
秋の歌	B横	かな	仲里 美代子	南風原町
千鳥	B横	かな	比嘉 優花	沖縄市
豊旗雲	B横	かな	赤嶺 弘子	うるま市
白雲の	B横	かな	粟国 美智子	沖縄市
暁の	B横	かな	福原 美枝	うるま市
朧月夜	A縦	調和体	古謝 政子	嘉手納町
玉山道中	A縦	調和体	當間 綾子	那霸市
里の秋	B縦	調和体	友利 久美子	北中城村
浜千鳥	B縦	調和体	上原 貴子	那霸市
HANA	A縦	前衛	山田 瑠美	糸満市
優游以卒歳 福壽康寧	D	篆刻	安里 涼子	那霸市
達人大觀 翰墨游戲	D	篆刻	田頭 節子	那霸市
無妄之福 武陵桃源	D	篆刻	上原 和子	那霸市
千紫万紅・知勇兼備	D	篆刻	上間 道子	那霸市
龍応鳴鼓・魯陽之戈	D	篆刻	山城 千恵子	那霸市
をりをりに	B横	かな	諸見里 史子	与那原町
清明懷亡母	A縦	漢字	渡口 葉子	うるま市
画眉鳥他	A縦	漢字	宮城 律子	沖縄市
漢詩四首	A縦	漢字	眞謝 幸代	名護市
沖の無限	B横	刻字	嘉数	

写真公募展

年度別展示部門入賞者一覧

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	県議会議長賞	市長会長賞	奨励賞			新人賞
S54	8	末吉 はじめ	嘉納 辰彦			田中 澄一	仲宗根 直	大嶺 信雄	上原 健次	小谷 隆男	
S55	9	大瀬 信雄	名嘉真 朝健			上原 健次	比嘉 清眞	川平 幸雄	照屋 忠	宮平 秀昭	
S56	10	嘉納 辰彦	大城 喜一郎			原田 欣哉	上地 完徳	大城 信吉	隅田 伸之	久田 友福	
S57	11	該当者なし	田場 盛雄			村澤 伸裕	久田友福・大城信吉	川平 幸雄	我那霸 生守	新里 和子	
S58	12	比嘉 朝之	上地 完徳					大城 信吉	久田 友福	村瀬 武文	
S59	13	大城 信吉	中村 正文					知念 清市	久田 友福	宮城 信秀	
S60	14	屋良 朝栄	吉直 新一郎					崎山 佳裕	比嘉 朝之	前原 常男	
S61	15	嘉数 繁光	大城 幸信					上原 健次	坂井 和夫	仲米 政雄	
S62	16	阿波連 黙	金城 幸彦					浦本 寛史	高塚 勝巳	新田 健夫	
S63	17	安田 敬子	末吉 はじめ					伊佐 美砂	金城 幸彦	知念 佑子	
H1	18	牧 直實	伊芸 元一					上原 健次	知花 照子	比嘉 朝之	
H2	19	嘉数 和子	比嘉 瞳子					金城 幸彦	儀間 真人	名嘉真 朝健	
H3	20	金城 幸彦	平井 節					大川 修翁	長正則	宮本 伝	
H4	21	金城 幸彦	知花 照子					比嘉 文雄	宮本 伝	山川 宥元	
H5	22	松門 重雄	島袋 正然					伊芸 元一	上地 千ミ子	新田 健夫	
H6	23	登野城 安則	祖慶 良勇					上地 千ミ子	仲宗根 直	平良 克之	
H7	24	富平 実	伊芸 元一					上地 千ミ子	崎山 洋子	比嘉 瞳子	
H8	25	上地 千ミ子	諸見里 光子					金城 一史	山城 正雄	与那城 武旭	
H9	26	染矢 尚武	松門 重雄					喜名 朝駿	友利 孝子	豊島 貞夫	
H10	27	知名 信子	染矢 尚武					瀬良垣 醫	平良 克之	真栄田 久嗣	
H11	28	平良 幸江	親泊 秀尚					阿南 鐵司	上地 千ミ子	与那城 壮旭	
H12	29	中山 興也	波平 常則					石川 敬介	喜名 朝駿	當眞 嗣範	
H13	30	瑞慶覧 進	山城 和代					喜名 朝駿	相慶 良勇	与那城 壮旭	
H14	31	喜名 朝駿	山城 盛達					佐久田 尚昌	長堂 嘉秀	宮城 義享	
H15	32	国吉 倖明	祖慶 良勇					翁長 盛武	添石 幸安	富平 実	
H16	33	仲村 千佳子	福村 安弘					小渡 静男	島袋 弘	山田 浩	松本 達子
H17	34	翁長 盛武	山城 和代					上原 健次	木村 正男	島元 智	しんざとえいじ
H18	35	仲村 千佳子	比嘉 清眞					仲村 繁	小瀬 朝子	松本 達子	森山 ひろみ
H19	36	辻土名 朝功	吉直 新一郎					比嘉 清眞	松山 朝雄	岩城 禮子	島尻 郁美
H20	37	吉直 新一郎	比嘉 清眞					宇栄 原 格	波平 栄宏	豊平 信則	泉谷 署
H21	38	添石 艶子	大瀬 勝美					南 研作	西原 けんじ	宮良 文	比嘉 正栄
H22	39	島元 智	国吉 倖明					新城 直美	高野 生優	比嘉 清眞	城間 由美子
H23	40	島元 智	島袋 陽子					比嘉 清眞	渡久地 政修	宮良 文	長堂 哲
H24	41	山内 弘子	田中 優子					祖慶 良勇	島袋 メリ子	福盛 庸夫	又吉 国夫
H25	42	砂川 悅子	新垣 フミ子					泉 朝順	木戸 栄里	大瀬 自栄	兼島 正
H26	43	山内 昌昭	宮城 米子					羽地 良磨	山内 弘子	城間 由美子	原国 政裕
H27	44	稻嶺 もりみつ	山内 昌昭					宮義 洋史	知念 信雄	大川 盛安	幸喜 あかり
H28	45	又吉 英男	真栄城 浩					宮城 米子	城間 由美子	金城 直也	永味 節子
H29	46	宮義 洋史	新城 直美					花城 雅孝	與儀 美奈子	我喜屋 功	親富祖 勝枝
H30	47	玉城 健次郎	大城 敏雄					砂川 悅子	喜屋武 敬子	名嘉 元希	天久 昌子
R1	48	添石 艶子	John H. Tien					安田 正昭	新垣 フミ子	城間 由美子	中村 秀雄

美術公募展

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
S52	6	永山 信春	我如古 彰一			上原 隆昭	米須 敏三郎		
S53	7	米須 敏三郎	尚 武			川平 恵造	比嘉 良二	屋良 朝春	
S54	8	永山 信春	米須 敏三郎			川平 恵造	比嘉 良二	与那霸 朝大	
S55	9	与那霸 朝大	喜友名 朝紀			朝内 信二郎	新垣 安雄	瑞慶山 昇	能山 宗忠
S56	10	川平 恵造	青山 映二			新城 剛	砂川 喜代	比嘉 良二	
S57	11	宮城 和邦	浦崎 彦志			上江洲 由朗	川平 恵造	当山 進	
S58	12	川平 恵造	和宇慶 朝健			伊本 隆一	上江洲 由朗	宮城 孝也	
S59	13	和宇慶 朝健	屋良 朝彦			伊本 隆一	砂川 喜代	和宇慶 朝健	
S60	14	上江洲 由朗	比嘉 良二			鎮西 公子	仲宗根 清	山内 盛博	屋良 朝彦
S61	15	上江洲 由朗	金城 満			伊良部 恵勝	金城 準子	宮城 孝也	
S62	16	島袋 喜代子	伊良部 恵勝			金城 準子	知名 久夫	山田 武	
S63	17	金城 満	宮里 顕			叶 英樹	知名 久夫	屋良 朝彦	
H1	18	新垣 正一	屋良 朝彦			叶 英樹	三木 元子	山内 盛博	
H2	19	宮里 昌健	長嶺 斎			奥原 崇典	瑞慶山 昇	中村 春孝	
H3	20	仲里 安広	新崎 竜也			奥本 静江	佐久間 盛義	瑞慶山 昇	
H4	21	奥本 静江	知念 秀幸			知名 久夫	仲本 清隆	宮城 和邦	宮里 昌健
H5	22	知念 秀幸	池宮城 智子			玉城 正明	知念 盛一	比嘉 良徳	
H6	23	又吉 邦華	比嘉 良徳			稻嶺 盛一郎	上原 仁輔	三木 元子	
H7	24	赤嶺 雅	大城 朝康			叶 ひでき	志喜屋 徹	花城 勉	
H8	25	花城 勉	宮城 あすか			赤嶺 雅	奥原 崇典	我謝 弘行	
H9	26	大城 久美子	津波 古 稔			新垣 盛秀	磯村 茂	玉城 正明	
H10	27	松本 妙子	三木 元子			奥本 静江	西平 賀雄	根間 智子	
H11	28	永原 達郎	根間 智子			親川 松清	佐久本 米子	堀川 恭昭	

年度	回	県知事賞	教育長賞	優秀賞	沖縄県文化振興会理事長賞	奨励賞			新人賞
H12	29	津波 古 稔				豊永 盛人			安里 充広
H13	30	与那嶺 芳恵				安富 幸子			小橋川 清一
H14	31	山川 さやか				柳井 昌智			宮城 和邦
H15	32	富元 明雄				与那嶺 芳恵			
H16	33	波平 宗宏				池原 優子			栗山 絵美子
H17	34	波平 宗宏				富名腰 ヨシ子			佐久本 米子
H18	35	島袋 洋				釣本 成行			安富 幸子
H19	36	佐久本 米子				橋本 弘徳			玉城 正明
H20	37	奥原 崇典				宮城 翔子			城間 義夫
H21	38	普天間 実佳			</				